

沿革

年	経営	製品／開発
1923	●古河電気工業と、ドイツのシーメンス社との資本・技術提携により「富士電機製造(株)」設立	
1924		●モータの製造開始
1925	●重電機器事業に進出	●変圧器の製造開始
1927	●家庭電器事業に進出	●発電機、扇風機の製造開始
1930		●整流器の製造開始
1933	●通信機事業に進出	●国内初のガラス遮断器(膨張遮断器)を製作
1935	●通信機部門を分離し、富士通信機製造(株)(現・富士通(株))設立	
1937	●計測器事業に進出	●電力量計の製造開始
1944	●(株)高千穂商会(現・富士古河E&C(株))の全株式を取得	
1953	●半導体事業に進出	●半導体(セレン整流器)の製造開始
1967		●漏電遮断器を開発
1969		●自動販売機の製造開始
1971		●ハイブリッドICの製造開始
1973		●複写機用セレン感光体の製造開始
1975	●物流部門を分離し、富士物流(株)を設立	
1976		●汎用インバータの生産開始
1980	●中央研究所を分離し、(株)富士電機総合研究所を設立	
1982		●りん酸形燃料電池を開発
1984	●社名を「富士電機(株)」に変更	
1985		●磁気記録媒体の製造開始 ●PLC(プログラマブルコントローラ)発売開始
1986		●MOSFETの生産開始
1988		●IGBTモジュールの製造開始
1989		●EIC統合化制御システムの納入
1994		●当社開発の宇宙用パワートランジスタを搭載した国産初H-IIロケット打ち上げ
1996		●世界初の大容量平型IGBT「車両用IGBT主変換装置」を受注
1998		●100kWりん酸形燃料電池の納入
1999	●カンパニー制を導入、執行役員制を導入	
2002	●三洋電機自販機(株)の全株式を取得 ●変電機器事業で(株)日立製作所と(株)明電舎との合併会社「(株)日本AEパワーシステムズ」設立	●バイオガス対応燃料電池発電システム技術を確立
2003	●純粋持株会社制に移行し、「富士電機ホールディングス(株)」に社名変更 ●富士電機冷機(株)を完全子会社化	
2006		●フィルム型アモルファス太陽電池の製造開始
2008	●水環境事業で日本ガイシ(株)との合併会社「メタウォーター(株)」設立 ●受配電・制御機器事業で日本法人シュナイダーエレクトリック(株)との合併会社「富士電機機器制御(株)」設立	●世界初リチウムイオンキャパシタ適用高圧瞬低対策装置を開発
2009	●富士電機アドバンステクノロジー(株)を吸収合併 ●富士電機E&Cに富士電機総設(株)、古河総合設備(株)を吸収合併し、商号を富士古河E&C(株)に変更	